

第3学年2組女子 保健体育科(保健分野)学習指導案

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-09-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 紫乃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00025749

第3学年2組女子 保健体育科（保健分野）學習指導案

指導者 伊藤 紫乃

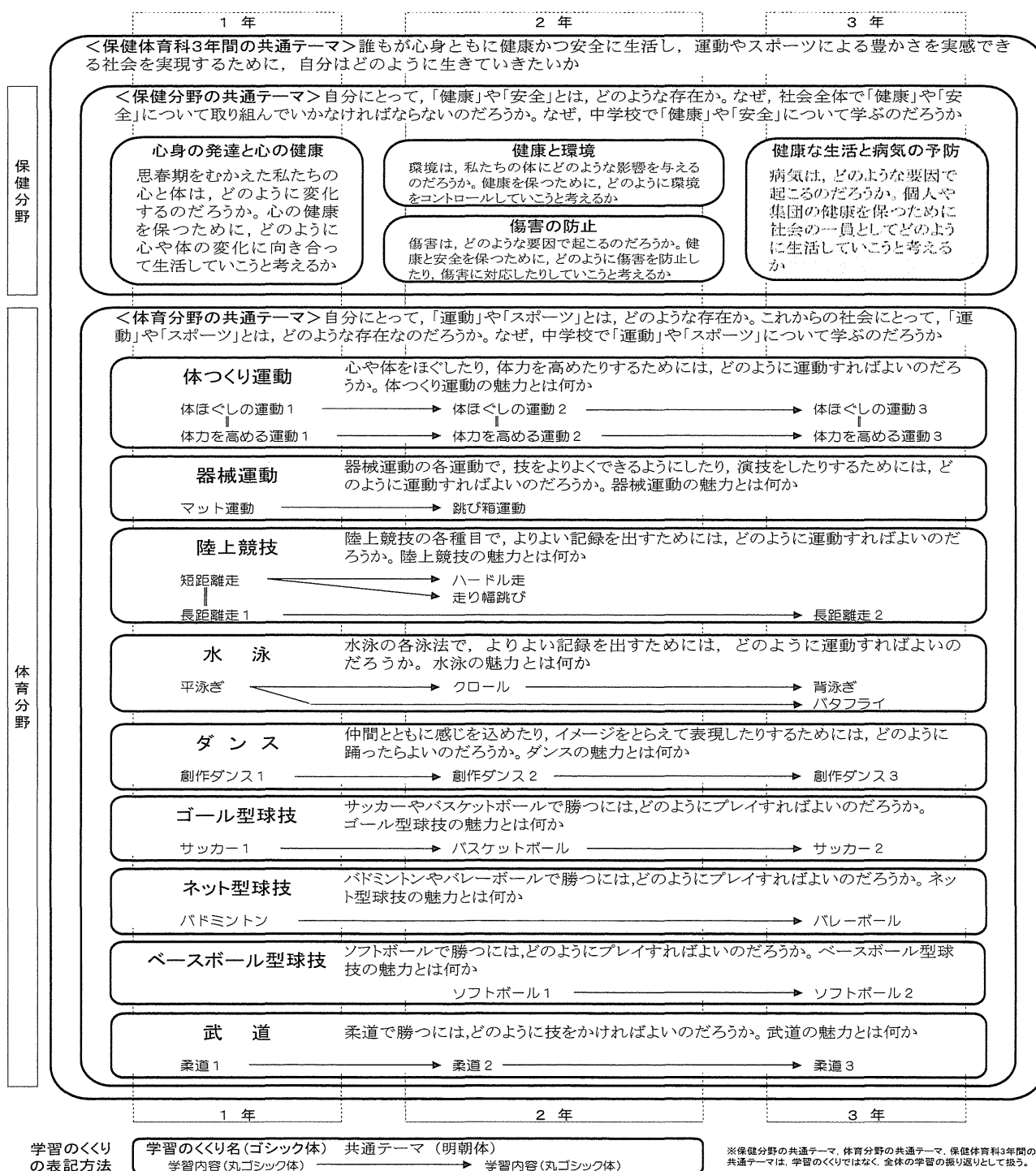
- 2 共通テーマを軸とした教科カリキュラムの構想図

保健体育科 3年間でめざす姿

生涯スポーツや健康・安全上の課題解決に必要な実践力を高めるとともに、現在および将来における、自他の明るく豊かな生活実現に向けて、主体的に運動やスポーツを活用したり、自他の健康を保持増進したり、安全を確保したりしようとする生徒

保健体育科 3 年間の共通テーマ

誰もが心身ともに健康かつ安全に生活し、運動やスポーツによる豊かさを実感できる社会を実現するために、自分はどのように生きていきたいか



3 学習のくくり「健康な生活と病気の予防」について

(1) 学習の構想表

学習活動 (下線部は本時の学習場面)		知識		スキル			情意	
		A 内容	B 方法	C 認知	D 身体	E 社会	F 興・関	G 追究
ガイダンス (1)	《共通テーマと共通課題の理解》 ○私たちの健康の成り立ち (1) 健康が主体の要因と環境の要因のかかわりによって成り立っていることを学習し、学習全体の見通しをもつ。また、共通テーマや共通課題について理解する。	1	1	1				
		2	2		—	—	3	2
		3		2				
		4						
つかむ学習 (13)	○生活習慣と健康 (2) 健康によい食事の仕方、日常生活への適切な運動の取り入れ方、休養・睡眠の取り方について要点をまとめる。	1	1	1				
		2	2		—	—	2	2
		3		2				
	○健康を守る社会の取組 (1) 保健・医療機関や薬品の有効利用、公衆衛生活動について要点をまとめる。	1	1	1			2	
		2	2	2	—	2		3
		3		3			3	
	○ミニ追究活動 (2) <u>救急蘇生の事例から、社会の一員として何ができるかを探る。</u> (本時 2 / 2)							
	○飲酒・喫煙・薬物乱用と健康 (3) 飲酒・喫煙・薬物乱用による身体への影響や、社会的影響について学習し、要点をまとめる。	1	1	1			2	
		2	2	2	—	2		3
		3		3			3	
	○ミニ追究活動 (2) 人間が酒・たばこ・薬物に手を出したり、依存したりする要因を探る。							
追究する学習 (2)	《追究課題の設定》《追究活動》 ○共通課題を受けた追究課題の設定と「提言書」作成 (2) 健康な生活のあり方や病気の予防の仕方について提言したい内容を、つかむ学習で学んだ内容の中から自己選択し、追究課題を設定する。そして、インターネットや書籍などを用いて詳しく調べ、提言書としてまとめる。							
つなげる学習 (2)	《交流活動》《振り返りの記述》《振り返りの記述の交流》 ○「提言書」の交流と学習全体の振り返り (2) 「提言書」の交流を通して、共通テーマに対する考えを深める。そして、気づきのメモも参考にしながら、これまでの学習全体を振り返り、共通テーマに対する自己の最適解をまとめたり、仲間との交流を通して考えを深めたりする。							
	【期待する生徒の表れ】 ・「提言書」の内容について根拠を明確にして説明するとともに、他者の提言に対して積極的に質問や意見を投げかけている。 ・健康な生活のあり方や病気の予防の仕方について、追究する学習で選択した内容以外の視点からも意見を述べている。 ・社会の一員として、個人や集団の健康を保持増進するための自己の役割について考え、振り返りの記述にまとめている。 ・誰もが健康で豊かに生きられる世界の実現に向けた、自己の生き方や社会のあり方について、振り返りの記述にまとめている。 など							

(2) 本学習のくくりでめざす生徒の姿とその姿に迫るための具体的な手だて

中学生期は、免疫力が強く身体の成長もめざましいため、健康について深々と考えたり、健康の保持増進に向けた意識や努力の必要性を感じたりすることが少ない。その一方で、彼らを取り巻く環境は、食生活・食文化の急激な変化や有害薬物の市民生活への浸透、新たな感染症の出現、自然災害などの命に関わる重大事故の発生など、健康を脅かす不安材料は多くなってきている。そのため、健康の保持増進に向けた生活習慣を確立したり、誰もが健康で豊かに生きられる世界の実現に向けて主体的に行動したりしていくことの重要性が、従来にも増して高まってきている。そこで、本学習のくくりでめざす生徒の姿を次のように設定する。

病気を予防するための実践力を身につけるとともに、誰もが健康で豊かに生きられる世界の実現に向けた、社会の一員としての自己の生き方やあり方について考える生徒

本学習のくくりでは、上記のめざす生徒の姿に迫るために、次の学習活動に取り組ませる。

まず、ガイダンスにおいて、WHO による健康の定義に照らして自分たちの生活について振り返らせることで、中学生が必ずしも健康とは言えないことに気づかせる。また、がん・心臓病などの生活習慣病や危険ドラッグ、新型インフルエンザなどの感染症、自然災害や重大事故の発生などが社会の大きな問題となっていることを挙げ、健康の保持増進には、個人だけでなく社会全体での取組が必要であることに気づかせる。さらに、本学習のくくりの共通テーマや共通課題を提示することで、おぼろげながらに学習を理解させる。また、学習計画表を示し、今後の学習の見通しをもたせる。

つかむ学習では、健康的な生活習慣のあり方や健康を守る社会の取組、飲酒・喫煙・薬物乱用、感染症の予防について、教科書を用いて解説したり、実際の事件・事故・病気の事例を示したりすることにより、ワークシートに要点をまとめさせ、基礎的・基本的な知識を習得させる。特に「健康を守る社会の取組」の学習では、救急蘇生に大切なことは何かを考察させ、中学生も一市民であることの自覚をもたせる。その理由として、現在、救急車が到着するまでの時間は約9分間と言われているが、例えば、自然災害が発生した場合には、連絡手段が断たれたり、道が寸断されたりするため、さらに時間がかかると予想される。このような場合、その場に居合わせた一般市民による救急蘇生が最も重要となるからである。浜松市内の中学校では、「中学生のための救急蘇生講座」が開催され、本校でも希望する生徒が参加している。新学習指導要領においても、個人生活で活用できる知識・技能として心肺蘇生法等の技能に関する内容を充実するよう示された。しかし、学んだ知識や技能を再確認する機会が少ないため、十分な知識や技能を身につけられるとは言い難い。さらに、知識や技能は定着していても、緊急時に対応できる行動力がない場合には人命救助は行えない。そこで、各グループにそれぞれ異なる救急蘇生の必要な事例を提示し、既習の知識を用いて対応を考えさせる活動を行い、その後、事例に対する解説を提示することで、救急蘇生に関する新たな知識を身につけさせ、さらに、行動することの大切さに気づかせる。

追究する学習では、共通課題をもとに自ら追究課題を設定させる。具体的には、健康な生活のあり方や病気の予防の仕方について提言したい内容を、つかむ学習で学んだ内容の中から自己選択させる。そして、インターネットや書籍などを用いて学習を深めさせ、「提言書」としてまとめさせる。これに続くつながる学習では、対話的な学びとして「提言書」の交流活動を設定し、共通テーマ「病気は、どのような要因で起こるのだろうか。個人や集団の健康を保つために、社会の一員としてどのように生活していこうと考えるか。」に対する考えを深めさせる。さらに、学習内容のまとめりごとにより書き留めさせてきた気づきのメモも参考にさせながら、これまでの学習全体を振り返らせ、共通テーマに対する最適解を見いださせる。

(3) 本学習のくくりの共通テーマと共通課題

共通テーマ (本質的な問いの 階層レベル)	個人や集団の健康を保つために、社会の一員としてどのように生活していこうと考えるか(レベル4)
共通課題	健康な生活のあり方や病気の予防の仕方について提言しよう。

4 本時について(本時6/18)

(1) 本時の目標

【健康・安全についての思考・判断】	救急蘇生の際に留意すべき点を考察し、健康を守るための社会の取組をもとに、今後の自己の救急蘇生の取組について考え、まとめることができる。 (A B 3) × (C 3) ・ (E 3)
-------------------	--

(2) 学習過程

●生徒の活動 ※期待する生徒の表れ	・指導上の留意点 ○支援 ◇評価
●前時の学習内容を確認する。	・前時で考えた、事例に対する救急対応の内容を再度確認するように伝える。
●学習課題を確認し、本時の見通しをもつ。	
救急蘇生の際に留意すべき点をまとめ、今後の自己の救急蘇生の取組について考えよう。	
●事例に対する救急蘇生の一連の対応について、解説を確認し、再度内容を見直す。	・大学生からもらった解説を確認し、自分たちが考えた内容に足りなかったことや、気がついたことなどを確認し、救急蘇生の一連の対応を見直すように伝える。
●異なる事例同士でグループを組み、自分が担当する事例とその対応について発表し合う。	・付け足した内容や、気がついたことを簡潔に発表するように伝える。 ・発表を聞いている生徒は、共通する点や気がついたことを、メモするように伝える。
●救急蘇生の際に留意すべき点をグループで考える。	・留意すべき点とその理由をまとめるように伝える。 ○意見が出ないグループには、その場の環境や重症度に着目するように助言する。 ○意見がまとまったグループには、重要視する内容を実践できるようにするためには、どうしたらよいかを考えるようにうながす。
●グループでまとめたことを発表する。	・他のグループの発表を聞いて、参考になったことを、メモするように伝える。 ・知識や技能、人の命を救おうとする態度や率先した行動が大切であることを確認させる。
●これまでの学習を踏まえ、ワークシートに自分の考えを記入する。	・これまでの学習を通して考えたことや、今後の自己の救急蘇生の取組について記入するよう伝える。 ○自分の考えをまとめることができない生徒には社会の取組を確認させ、自分に何ができるかを考えるようにうながす。 ○自分の考えをまとめることができた生徒には、他者へ発信するための方法を考えるようにうながす。
※救急蘇生の際に留意すべき点を考察し、健康を守るための社会の取組をもとに、今後の自己の救急蘇生の取組について考え、まとめている。	
●本時の活動を振り返り、共通テーマについて考えたことや気づいたことを「気づきのメモ」に記入する。	◇本時の目標について、※印のような生徒の表れが見られたか。